

財団法人 8020 推進財団

平成17年度歯科保健活動助成事業報告書

健康しもにた21「8020」住民学習会

フロリデーションモデルを活用して

群馬県下仁田町

II. フロリデーション啓発取り組みの経過

健康しもにた 21「8020」を推進するために専門機関による学術支援を得て多様な地区組織との連携による啓発活動を実施

年度	内 容
1 4	健康しもにた 21 策定「8020」の推進
1 5	<p>8020 基盤整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公衆衛生としてのフッ化物応用について口腔衛生学会へ学術支援要請 ・ 8020 専門委員会を設置 <ul style="list-style-type: none"> 委員会より「フロリデーション」の提言を受ける ・ 住民の歯への思いを知るための話し合いを重視した学習会を開催 ・ フォーカスグループインタビューの実施 <ul style="list-style-type: none"> 歯の大切さは悪くならないとわからない、 自分の歯は失ってしまったが子供や孫の歯は守ってあげたい フロリデーションが良いとわかって不安 ・ フロリデーションパンフレットの検討 ・ フロリデーションアンケートの実施 <ul style="list-style-type: none"> フッ素はむし歯予防に効果があることを知っている フッ素濃度の理解が不十分であることがわかる ・ 先進地視察：日本大学松戸歯学部視察 ・ 群馬県歯科保健賞受賞記念シンポジウム開催
1 6	<p>8020 住民学習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の歯への思いを知るための学習会の開催 ・ フロリデーション水飲用体験を通じた住民学習会の開催 ・ フロリデーションアンケートの実施 <ul style="list-style-type: none"> フッ素はむし歯予防に効果があることを知っている フッ素濃度の理解が不十分であることがわかる ・ 町制施行 50 周年記念式典にフロリデーション水を提供 ・ フロリデーションパンフレットの作成 ・ フロリデーションを理解しやすくするため、モデル装置について検討 ・ モデル装置制作について厚生労働省へ技術支援要請 ・ 日本大学松戸歯学部のフロリデーション装置をモデルにして新しい装置を制作 ・ 先進地視察：日本大学松戸歯学部視察
1 7	<p>8020 住民学習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚生労働省の技術支援を得てフロリデーションモデル装置が完成 ・ 住民の理解と安心感を向上させるために飲用体験、料理実習等体験を通じた学習会の開催 ・ フロリデーションモデル装置稼働、F 濃度調整のための職員等学習会 ・ フロリデーション水飲用アンケート調査 ・ 効果的な啓発のためのフロリデーションワークショップの開催 ・ 職員、歯科衛生士による定期的なフロリデーション水調整作業 ・ 町の歯科医院、薬局等においてフロリデーションの啓発 ・ 広報、パンフレットの各戸配布、地元新聞等による啓発

2. 健康しもにた21「8020」推進委員会（専門部会）の活動

1) 目的

健康しもにた21「8020」推進委員会要領（資料1）のもとに、健康づくり推進協議会の専門部会として位置づけ、日本口腔衛生学会、富岡甘楽歯科医師会などの専門団体からの学術支援を得て、「8020」を目指すために、下仁田町における公衆衛生としてのフッ化物応用について検討し、健康づくり推進協議会へ提言する。

2) 健康しもにた21「8020」推進委員会（専門部会）構成

委員長	市川智旦	下仁田町歯科医師
委員	小林清吾	日本口腔衛生学会日本大学松戸歯学部
同	田浦勝彦	日本口腔衛生学会東北大学歯学部
同	佐久間汐子	新潟大学医師額総合病院
同	石田覚也	元気県ぐんま21口と歯の健康部会
同	鈴木 廣	富岡甘楽歯科医師会会長
同	萩原吉則	富岡甘楽歯科医師会専務理事
同	黒澤良介	富岡甘楽歯科医師会公衆衛生担当理事
同	入山久美子	富岡甘楽地区歯科衛生士代表
同	落合慶一	下仁田町歯科医師
同	王 愛熙	下仁田町歯科医師
同	青木秀夫	下仁田町医師
同	佐藤 理	下仁田町医師
同	香内信明	下仁田町医師
同	小池敏博	下仁田町薬剤師
同	須賀康治	下仁田町薬剤師
同	小林京子	下仁田町薬剤師
同	大井田文雄	下仁田町薬剤師
同	藤田萬里子	富岡保健福祉事務所長
事務局	島津君夫	下仁田町保健センター
同	佐藤喜一	下仁田町保健センター
同	伊原よし江	下仁田町保健センター
同	鈴木いせ	下仁田町保健センター

3) 委員会開催日

第1回	平成15年11月13日（木）
第2回	平成15年12月16日（火）
第3回	平成16年 2月 6日（金）

4) 健康づくり推進協議会への提言書の提出

平成16年3月25日開催の健康づくり推進協議会へ「8020」達成のための公衆衛生としてのフッ化物応用について「下仁田町におけるフロリデーシヨンの推進」に関する提言を行った。

V.平成17年度「健康しもにた21」8020住民学習会概要

1 目的

健康しもにた21計画にもとづき、生涯を通して誰もが食事を楽しみ、健康的な生活が送れるよう、フッ化物を利用したむし歯予防の正確な情報を住民に伝え、フロリデーションが受け入れられる土壌を作る。

2 事業内容

- 1) 専門機関による支援を得て、多様な地区組織との連携による啓発
- 2) フロリデーションモデル装置の設置
- 3) フロリデーション水を利用した啓発
- 4) フロリデーション水を利用した料理教室
- 5) フロリデーションワークショップの開催
- 6) フッ化物濃度調整学習会
- 7) フロリデーション装置稼働のためのフッ素濃度調整作業
- 8) 町の歯科医院および薬局においてフロリデーションの啓発。
- 9) 広報やパンフレットの各戸配布、地元上毛新聞による啓発。

3. 平成17年度事業内容一覧

実施日	事業内容	スタッフ	人数
4/15	8020 住民学習会打合せ・職員学習会	小林清吾 歯科医師・職員	8
4/20	フロリデーションモデル装置を活用した啓発活動について打合せ	小林清吾・眞木吉信 歯科医師・町長・職員	10
4/21	保健推進員学習会	田浦勝彦	86
4～	定期的な保健事業及び地区組織活動参加者へのフロリデーション啓発 乳児健診(6回)・幼児健診(12回) 3歳児健診(4回) ちびっこリズム・わんぱくクラブ12回 定期健康相談・いこいの広場(各12回) リハビリ教室(12回) 70歳健康教室(6回) 地区組織活動参加者	町保健師・栄養士	118 142 57 503 401 547 54
5/	フロリデーション水を利用した料理実習 対象者・健康大学受講者	町栄養士・保健師	243
5/	フロリデーション啓発打ち合わせ	小林	4
5/	基本健診結果説明会住民学習会	町保健師	226
5/18 ～5/26	フロリデーション水を利用した料理実習 対象者・食生活改善推進員(3回)	町栄養士・保健師	43
6/1 ～6/15	フロリデーション水を利用した料理提供 対象者・ミニデイサービス来所者(5回)	町栄養士・保健師 食生活改善推進員(25)	120
6/11	8020 住民学習会打合せ・学習会	小林・田浦・佐久間・ 八木・8020 推進委員 会・職員	
6/30	フロリデーションモデル装置搬入・F濃度調整職員学習会	小林・田口・歯科医師 職員	10
7/6	モデル装置稼働・F濃度調整職員学習会	小林・田口・歯科医師 職員	10
7/21～ 12/22	フロリデーション水を利用した料理提供 お母さんと一緒に学ぶたべもの教室(2)	町栄養士・保健師 食生活改善推進員(28)	150
7/24	モデル装置完成報告会・学習会	小林・田浦・佐久間・ 八木・田口・田口・境 8020 推進委員・健康 づくり推進協議会・保 健推進員・健康しもに た 21 推進ネットワー ク・町長・職員	32
7/21～ 8/24	フロリデーション水を利用した料理教室 親と子の食育教室5回	町栄養士・保健師 食生活改善推進員(30)	140
8/2	モデル装置稼働・F濃度調整職員学習会	小林・田口・山内・歯 科医師・衛生士・職員	12
8/23～ 11/22	フロリデーション水を利用した料理提供 対象者・リハビリ教室参加者(2回)	町栄養士・保健士 食生活改善推進員(10)	84
9/12	モデル装置稼働・F濃度調整職員学習会	小林・田口・職員	8

実施日	事業内容	スタッフ	人数
9/1～ 9/8	フロリデーション水を利用した料理実習 対象者・食生活改善推進員	町栄養士・保健師	44
9/	フロリデーション水を利用した料理実習 対象者・男性の料理教室受講者（2回）	町栄養士・保健師	50
9/6～ 10/4	フロリデーション水を利用した料理実習 対象者・独居老人給食サービス	町栄養士・保健士 食生活改善推進員（10）	115
9/17	フロリデーション啓発打合わせ会議	小林・佐久間・八木	3
9/30	フロリデーション啓発打合わせ会議・学 習会	小林・田浦・佐久間・ 八木・田口・8020推 進委員会・職員	22
10/～	糖尿病友の会料理実習（3回）	町栄養士・保健師	48
10/5	民生委員会フロリデーション学習会	町保健師	35
10/30	フロリデーション啓発打ち合わせ会議	小林・田浦・歯科医師 ・職員	6
11/5	健康祭フロリデーション啓発打ち合わせ	小林・田浦・保健所 ・歯科医師・職員	10
11/6	健康祭フロリデーション啓発	小林・田浦・佐久間・ 田口・歯科医師・歯科 衛生士・歯科学学生・保 健所・職員・保健推進 員（10）	500
11/16	フロリデーション水を利用した料理実習 ヘルスサポーター21養成講座（24）	町栄養士・保健師 食生活改善推進員（9）	35
1/	フロリデーション水を利用した料理実習 対象者・保健推進員（4回）	町栄養士・保健師	87
1/	出前健康講座 対象者・馬山地区高齢者（3回）	町栄養士・保健師	42
1/24	モデル装置稼働・F濃度調整 打ちわ せ会議	小林・歯科医師・職 員	8
2/8～ 2/24	フロリデーション水を利用した料理実習 対象者・食生活改善推進員	町栄養士・保健師	42
3/19	フロリデーションワークショップ	小林・田浦・佐久間・ 八木・8020推進委員 会・保健推進員・歯学 部学生・歯科衛生士学 生・職員	40
3/19	フロリデーション啓発打合会	小林・田浦・佐久間・ 八木・8020推進委員 会・職員	20
3/24	フロリデーション水を利用した料理実習 男性の自立のための食生活講座（15人）	町栄養士・保健師 食生活改善推進員（8）	25
その他	・広報・パンフレット各戸配布 ・上毛新聞にフロリデーション記事掲載 ・歯科医院・薬局等による啓発 ・他県・市町村等からの視察対応		

4. フロリデーションモデル装置活用による啓発活動

1)モデル装置活用による住民啓発活動一覧表

実施日	事業内容	スタッフ	人数
4月15日	保健推進員学習会	田浦勝彦	86
4月～3月	定期的な保健事業における啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・乳児健診：年6回 ・幼児健診：年12回 ・3歳児健診：年4回 ・ちびっこリズム：年12回 ・わんぱくクラブ：年12回 ・定期健康相談：年12回 ・いこいの広場：年12回 ・リハビリ教室：年12回 ・70歳健康教室：年6回 地区組織活動開催時における啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・食生活改善推進員活動 ・生命の貯蓄体操教室 ・糖尿病友の会（あじさいの会） ・童謡を歌う会 ・足の健康の会 ・自分の老後講座同窓会 	町保健師・栄養士	118 142 57 503 58 257 144 547 54 79 252 103 83 30 36
5月	基本健診結果説明会	町保健師・栄養士	226
7月24日	モデル装置完成報告会・学習会	小林・田浦・佐久間・八木・田口・田口・境8020推進委員・健康づくり推進協議会・保健推進員・健康しもにた21推進ネットワーク・町長・職員	32
11月6日	健康まつりフロリデーション啓発	小林・田浦・佐久間・田口・歯科医師・歯科衛生士・歯科学生・保健所・保健推進員職員	500
11月	ヘルパー研修会時学習会	町保健師	20
	節目健診時学習会（2回）	町保健師・栄養士	31
3月19日	フロリデーションワークショップ	小林・田浦・佐久間・八木・8020推進員・歯学部学生・歯科衛生士学生・技師・職員	40
合計	122回		3,398

2)モデル装置活用による住民学習会結果と考察

日本大学松戸歯学部フロリデーション装置を借用して、住民学習会のフロリデーション水の提供を行ってきたが、保健センター内にモデル装置が設置でき、平成17年8月1日より保健センター1、3階のウォータークーラー1、2階調理室および栄養学習室より給水開始し、いつでもフロリデーション水を体験できる環境が整い、夏休み中の中学生やセンター利用者が大勢利用した。

体験者はおいしい水、ふつうの水との返答であった。

5. フロリレーション水を使用した料理実習・料理提供等

1) フロリレーション水を使用した料理実習等一覧表

実施日	事業内容	スタッフ	人数
5月～3月	対象者：健康大学受講者（7回）	町栄養士・保健師	243
5/18～5/26	対象者：食生活改善推進員（3回）	上に同じ	43
6/1～6/15	対象者：ミニデイサービス来所者（5回）	町栄養士・保健師 食生活改善推進員 25人	120
7/21～ 12/22	対象者：お母さんと一緒に学ぶ食べ物講座（2回）	上に同じ 食生活改善推進員 28人	150
7/21～8/24	対象者：親と子の食育教室（5回）	上に同じ 食生活改善推進員 30人	140
8/23～ 11/22	対象者：リハビリ教室参加者（2回）	上に同じ 食生活改善推進員 10人	84
9/1～9/8	対象者：食生活改善推進員（3回）	上に同じ	44
10/6～2/20	対象者：糖尿病友の会（3回）	上に同じ	48
9/	対象者：男性の料理教室（2回）	上に同じ	50
9/6～10/4	対象者：独居老人給食サービス（2回）	上に同じ 食生活改善推進員 10人	115
11/16	対象者：ヘルスサポーター 21 養成講座	上に同じ 食生活改善推進員 9人	35
1/～	対象者：保健推進員（4回）	町栄養士・保健師	87
1/	対象者：出前健康講座（馬山地区高齢者 3回）	上に同じ	42
2/8～2/24	対象者：食生活改善推進員 3回	上に同じ	42
3/24	対象者：男性の自立のための食生活講座	上に同じ 食生活改善推進員 8人	25
合計	46回		1,268

2) 結果と考察

年間を通して、46回のべ 1,268 人を対象に調理実習をおこなった。まず、町の栄養士や保健師がフロリレーションパンフレットを使用して説明を行った後、フロリレーション水を使用して料理を行った。フロリレーション水を使用して料理をすることについては、ほとんどの人に抵抗なく受け入れられた。お茶や料理した物の味は変わらないこと、ご飯はおいしいとの感想が得られた。

6. フロリデーション水飲用体験アンケート調査(健康祭り)

1.) 回答者の年代及び性別

年代	男性	女性	未記入	合計
10歳未満	3	5	2	10
10代	6	3	0	9
20代	1	4	0	5
30代	4	8	2	14
40代	3	15	1	19
50代	1	28	0	29
60代	3	29	4	36
70代	14	22	4	40
80代	6	11	1	18
未記入	0	0	1	1
合計	41	125	15	181
%	22.7	69.0	8.3	100

2.) フロリ水を飲みましたか

年代	1杯だけ	2杯以上	飲んでいない	回答なし	合計
10歳未満	8	2	0	0	10
10代	8	0	1	0	9
20代	5	0	0	0	5
30代	12	1	0	1	14
40代	16	3	0	0	19
50代	27	2	0	0	29
60代	31	1	3	1	36
70代	38	1	0	1	40
80代	18	0	0	0	18
未記入	1	0	0	0	1
合計	164	10	4	3	181
%	90.6	5.5	2.2	1.7	100

アンケートに答えた人のうち96%が飲んだと答えている。

フロリ水を飲んだ人を対象に質問

3.) いつも飲んでいる水と比べて味はどうでしたか？

年代	おいしい	変わらない	おいしくなかった	回答なし	合計
10歳未満	6	3	1	0	10
10代	4	3	1	0	8
20代	1	4	0	0	5
30代	3	10	0	0	13
40代	12	6	1	0	19
50代	18	10	1	0	29
60代	22	8	1	1	32
70代	24	14	1	0	39
80代	13	5	0	0	18
未記入	1	0	0	0	1
合計	104	63	6	1	174
%	59.8	36.2	3.4	0.6	100

フロリ水を飲んだ人はおいしい、変わらないと答えた者をあわせると 96 % であった。

4.) また飲みたいですか？

年代	飲みたい	どちらでもよい	飲みたくない	回答なし	合計
10歳未満	6	4	0	0	10
10代	3	4	1	0	8
20代	2	3	0	0	5
30代	9	4	0	0	13
40代	16	3	0	0	19
50代	24	5	0	0	29
60代	23	9	0	0	32
70代	28	9	1	1	39
80代	12	4	1	1	18
未記入	1	0	0	0	1
合計	124	45	3	2	174
%	71.3	25.9	1.7	1.1	100

また飲みたいと答えた人は 124 人 71.3 %、飲みたくない人は 3 人 1.7 %、どちらでも良いと答えた人は 45 人 25.9 %であった。

5). 保健センターにフロリ水を汲みに来ますか？

選択肢	男性	女性	未記入	合計	%
汲みに来たい	18	92	11	121	69.5
汲みに来ない	2	7	0	9	5.2
わからない	20	20	2	42	24.1
回答なし	0	1	1	2	1.2

・汲みに来たいと答えた人は 121 人 69.5 %、来ない 9 人 5.2 %、わからない 42 人 24.1 %であった。

6) アンケート結果と考察

結果

- (1.) アンケート回答者の 69 % は女性であった。
- (2.) アンケート回答者の 96 % がフロリレーション水を飲んだと答えている。
- (3.) フロリレーション水を飲んだ人の 96 % がおいしい、変わらないと答えている。
- (4.) また飲みたいと答えた人は 124 人 71.3 % であった。
- (5.) 汲みに来たいと答えた人は 121 人 69.5 % であった。

考察

このアンケート結果から、96%がフロリレーション水を飲んだと答えており多くの住民に抵抗なく受け入れられたことがわかった。飲んでみた結果は 96%がふつうの水と変わらないと答えている。このように体験を通じた啓発活動がいかにより住民に理解されやすいかがわかった。また、70 % の人がフロリレーション水をまた飲みたい、汲みに来たいと答えている。この事はフロリレーション推進において大変心強い、このような住民パワーの地道な活動によりフロリレーションの実現が可能となると考えられる。

7. フロリデーションワークショップの開催

1) 目的

「健康しもにた 21」計画に基づき、8020 の実現の基礎となるフロリデーションについて理解を深め、学習した保健推進員等が自分の言葉で町民にわかりやすく伝えることが出来る力をつける。

2) 対象者

保健推進員、健康しもにた 21 推進ネットワーク関係者、公衆衛生や予防歯科に関心のある学生、8020 専門委員等

3) 基礎学習

(1.)15,16 年度のフロリデーションアンケートをもとに基礎学習を行う。

(2)フッ素とは何か

(3.)フッ素はどのようにして歯を丈夫にするか

(4)私たちはなぜフッ素が必要か

(5)安全性はどのように確かめられてきたか

4) グループワーク

(1.)町の人たちにわかりやすく伝えるためにどのように話せばよいか

(2.)わかりやすく伝えるための良い媒体や工夫は何か

5) グループワークの方法

フロリデーションについて想定される良くある質問及びフロリデーション啓発のキャッチフレーズを考え、日めくりのキャッチフレーズ集を作る。

6) 作業手順

作業 1.各自が良くある質問 1～3 を考える

作業 2. 各自が考えた質問を出し合い、班ごとに良くある質問 1～3 を選ぶ

作業 3. 各自がキャッチフレーズを考える

作業 4.各自が考えたキャッチフレーズを出し合い、班ごとにキャッチフレーズを選ぶ

7) 班ごとに選んだ良くある質問

フロリデーションについて

- ・フロリデーションて何ですか？(3)
- ・フロリデーションはどのような方法で行うのですか？

安全性について

- ・安全ですか？(4)
- ・体に害はないのですか？
- ・ミルク、妊婦さん、病気の人
- ・乳幼児の場合、成人で病気を持っている人（腎臓病の人）
- ・すべての対象においてどうなのか？（摂取量において）
- ・医者からもらった薬をフロリデーション水で飲んでも大丈夫ですか？
- ・フロリデーションは安全性が保証されていますか？
- ・フロリデーションの安全性は確かなのですか？
- ・体に対する有害性、有病者
- ・水道に入れる量が間違える事はないのですか？

効果について

- ・どのくらい飲み続けると効果があらわれるのですか？(2)
- ・フロリデーションすることで、どのくらいの効果が得られますか？
- ・フロリデーションはすべての人に有効なのですか？
お年寄りにもあるのか
本当に効果があるのか？
- ・歯磨きするのと比較して、どのくらいむし歯予防に効果があるのか？
- ・フロリデーションはいつから始めても効果は期待できますか？

摂取量・摂取方法について

満腹時、空腹時、就寝時

料理や洗濯物に変化はないのですか

費用はどのくらいかかるのですか？

飲みたくない人は(選択権)どうするの？

いつ頃から、どの機関で始まるのですか

それだけのもの(効果があるもの)がなぜ日本で広まらないのでしょうか

健康祭りで説明したが、あまり納得されなかった。そんな素晴らしいことを町でやってくれればありがたいと思います。

8) 【 わが班が選んだキャッチフレーズ金・銀・銅 】

金

- ・水道水から出てくる健康の素！
- ・家族で健康フロリデーション！
- ・小さな努力で大きな予防！
- ・フロリデーション！毎日飲んでむし歯予防
- ・あなたのおうちの蛇口からみんなに広がるムシ歯予防！
- ・安全・安価フロリデーション！
- ・守ってよ！フッ素うがいで僕の歯を！！
- ・歯は臓器フロリで守ろう大切に！
- ・みんな幸せフロリライフ！
- ・自然の力でむし歯予防！

銀

- ・だれでも簡単すぐできる！
- ・のんで一生自分の歯！
- ・らくして安全むし歯予防！
- ・フッ素で一生自分の歯！
- ・下仁田名産・ねぎとこんにゃくフロリ水！

- ・ 毎日できるむし歯予防・フロリデーション！
- ・ フッ素ゴクン！！のんだらぼくの歯強くなる
- ・ フロリデーションで今日も毎日笑顔の歯！
- ・ 水道水が宝の水に！
- ・ 歯の健康はすべての人に平等に！

銅

- ・ 健康の源フロリデーション！
- ・ 油断してても安心フッ素！
- ・ 毎日の生活でむし歯予防！
- ・ 名産はねぎとこんにゃくフロリデーション！
- ・ むし歯予防にフロリ水！
- ・ 自然に強い歯フロリ水！！
- ・ ムシ歯予防・世界で目指すフロリデーション！
- ・ おさな子にフッ素で明るい歯の未来！
- ・ それでも飲むの？ただの水「飲もうよフロリ水！」
- ・ らくで安くて効果が大きい！

9) フロリデーションワークショップの結果と考察 想定される良くある質問は、以下のとおりであった。

1. フロリデーションとは何か
2. 安全性について
3. 効果について
4. 飲みたくない人は
5. 摂取量は
6. 料理や洗濯等の変化
7. いつ頃から始まるのか
8. なぜ日本で広まらないのか
9. 町でやってくれればありがたい

この作業シートを利用した参加型学習会は、まず各自が考えた後に、グループごとの話し合いを行い、グループごとに集約する作業を行った。この方法はグループ員の数だけ考えられ、自分以外の人の気づきを知るためにも有効であった。また、住民の疑問や関心を知るために有効な方法であると考えた。

キャッチフレーズを考えるグループワークも各自が考えたものを出し合い、グループで集約する作業を行った。この作業後、疑問やキャッチフレーズを発表したが、皆すてきなキャッチフレーズを考えていたので拍手を浴び、楽しいグループワークであった。

今後の学習会はこの方法を取り入れ、楽しく学習を重ねてゆくことが良いと考える。また学習会の持ち方として、良くある質問の1～6については、丁寧に答えてゆくことが大切である。特にここに上げられたいろいろな疑問は、健康に害のない、むし歯予防にちょうどよいフッ素濃度がわかることにより理解されることが多いといえる。また、いろいろな疑問は、わかりやすい本やフロリデーションファクト等を利用し、住民自らが調べる作業を通して、より力をつける事が出来ると考える。7～8は専門の先生方の指導を得ながらグループワークを通し、話し合いを深めることが必要である。そして9のように本当に町でやってほしいと考える住民が多くなることにより、地域でのフロリデーションが実現される事と考える。

VI.評価

(1) 専門機関による支援を得て、多様な地区組織との連携による啓発

日本口腔衛生学会、厚生労働省、富岡甘楽歯科医師会、富岡保健福祉事務所、町内歯科医師、医師、薬剤師、歯科衛生士等、保健医療の専門家の支援を得て啓発活動打ち合わせ会議を開催し方針を決定した。また地域の健康づくりのリーダーとなる健康づくり推進協議会、保健推進員、食生活改善推進員、健康しもにた21推進ネットワーク、地区組織活動参加者等が中心となり、フロリデーションについて学んだことを地域住民と共有し、正しい情報を伝える活動を行えたことは大きな成果であった。

(2) フロリデーションモデル装置の設置

厚生労働省の技術支援を得て、保健センター内にモデル装置が完成し、いつでもフロリデーションを体験できる環境が整ったことは、フロリデーションをより理解しやすくして、安心感を向上させるための、大きな効果が得られものと考ええる。

(3) フロリデーション水を利用した啓発

保健センターで行う事業や学習会に合わせて、フロリデーションパンフレットの説明やフロリデーション水を体験できる機会をもうけた。健康祭りでは保健推進員が中心となり、フロリデーションパネル展示やパンフレット、フロリデーション水の提供を行った。この健康祭りアンケートの結果から、フロリデーション水が多く多くの住民に好意的に受け止められたことがわかったことは大きな成果といえる。

(4) フロリデーション水を利用した料理教室

食生活改善推進員学習会、保健推進員学習会、健康大学、男性の料理教室、出前健康講座等、フロリデーション水を使用して、料理実習を行ったが、おいしい水、料理の味は変わらない、ご飯がおいしいなどの感想が多く、フロリデーション水を使用した料理実習は参加した住民に好意的に受け止められたことがわかったことは大きな成果といえる。

(5) フロリデーションワークショップの開催

保健推進員、歯科学生、歯科衛生士学生、歯科医師、技師等により、よくある質問とキャッチフレーズについてワークショップを行った。このようなグループごとの作業を通して疑問点を明らかにし、さらに疑問点を調べる事によりリーダーとなる住民の力が更なる事と考えられる。またキャッチフレーズを考える作業は楽しみながらフロリデーションを啓発するために有効であると考ええる。

(6) フッ化物濃度調整学習会

フロリデーションモデル装置稼働にあたり、職員、歯科衛生士、薬剤師、歯科医師等を対象に学習会を行い、フッ化物濃度調整についてみんなで共有できたことは大きな成果であるといえる。

(7) フロリデーション装置稼働のためのフッ素濃度調整作業

町職員および在宅歯科衛生士による調整作業の結果、常時 0.8 ppm に調整出来、住民に提供できていることは大きな成果といえる。

(8) 町の歯科医院および薬局においてフロリデーションの啓発

8020 専門委員の先生方が中心となり、自主組織フロリデーション推進会議を立ち上げ、受診者やお客様にフロリデーション啓発を行ってもらえていることは大きな力である。

(9) 広報やパンフレットの各戸配布、地元上毛新聞による啓発。

広報 4 回、保健推進員によるパンフレットの全戸配布、地元の上毛新聞にフロリデーションについて掲載してもらえた事は大きな成果であると考ええる。

Ⅶ. おわりに

富岡甘楽歯科医師会、歯科衛生士会、町内の医師、歯科医師、薬剤師の先生方、富岡保健福祉事務所の支援の元に、日本口腔衛生学会の学術支援、厚生労働省の技術支援を得て、平成17年度は保健センター内にフロリデーションモデル装置が完成いたしました。これはフロリデーションを理解する上で効果的、かつ画期的な道具になると考えます。

食べることは健康の源です。おいしく食べて元気で楽しく暮らすことは皆、望むところです。そのためにむし歯にしない一次予防の取り組みは欠くことが出来ません。

今後の「健康しもにた21」歯の健康づくりの目指すべき方向は、住民皆様の「歯への思い」を大切にして、専門委員会から頂いた提言「フロリデーションの推進」をもとに、フロリデーションモデル装置を活用して、体験を通じた理解と住民の安心感を向上させ、住民自らが保健行動を選択するための支援をしていきたいと考えています。

助成いただきました、財団法人8020推進財団をはじめ、熱心にご指導頂きました先生方及び熱心に学習していただいた住民の皆様へ厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。